

施策評価シート（平成30年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

| | | | | | | | | | | |
|---------------|-------|--|-----|-------------|-------------|-----------------------|-----------|---------|-------------|-------|
| 総合計画 中期プラン | 政策No. | 2-3 | 政策名 | 防災危機管理体制の充実 | 政策の 目指す姿 | 災害や様々な危険から守られ、暮らしています | 施策 主管課 | 消防本部総務課 | 施策主管 課長名 | 岡田 弘康 |
| | 施策No. | 3 | 施策名 | 消防力の強化 | 施策の 目指す姿 | 火災から守られています | 関係課名 | 警防課、予防課 | | |
| | 現状と課題 | <ul style="list-style-type: none"> 消防車両、消防施設老朽化により修繕等のランニングコストが増加傾向にあります。 「自ら考え、行動し、市民から信頼される高い人間力を持った消防職員」が求められています。 地域防災の要である消防団員に占める被雇用者の割合が増加し、確保が困難になっています。 火災から市民を守るためには、消防機関だけではなく、事業者、地域および市民が協働した予防体制の強化が必要です。 火災件数の半数が「たき火」や「草焼き」などを原因とする野火火災となっています。 | | | | | | | | |

◎ 前年度の評価の振り返り

（前年度評価時の今後の方向性）

- ・更なる火災件数の抑制と被害軽減に向け広報活動を強化し、市民の防火意識の向上を図る。
- ・防火講話会等の機会を通じて、住宅用火災警報器の維持管理に関する説明および未設置世帯に対する設置促進を行い、広く市民の理解を図る。
- ・消防団員確保のため、消防団活動の意義について市民に周知を図るとともに、各種行事の見直し、団員優遇制度の充実、女性や学生を含めた団員募集活動を定期的実施する。

（反映状況）

- ・市ホームページや「広報はなまき」などの様々な広報媒体を利用した広報をはじめ、防火講話会、避難訓練指導、さらに消防車両での巡回広報により市民へ火災予防を呼び掛けた。
- ・防火講話会等の機会を通じて、住宅用火災警報器の適正な維持管理および設置促進を市民へ呼び掛けた。
- ・各種広報媒体を通じて、消防団員募集の広報活動を展開するとともに消防団活動を広く市民や事業所にPRし入団促進に取り組んだ。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1) 消防施設等の整備

- 消防車両、消防施設の整備、更新
 - ・消防体制の充実強化を図るため車両更新整備
- 消防水利、消防団施設等の整備、更新
 - ・消火栓の設置及び移設、耐震性貯水槽の設置
 - ・消防屯所、消防ポンプ自動車等の更新
- 消防職員の育成
 - ・岩手県消防学校入校

(2) 地域の消防力の向上

- 消防団員の確保対策を推進
 - ・消防団活動を市民にPRし、団員数の増加対策を実施
- 消防団組織の見直しの検討
 - ・消防団組織等見直し委員会の開催
- 消防団員の活動環境の整備
 - ・防火服等、活動装備品の更新
- 消防団員応援事業の推進
 - ・応援事業所数の増加、岩手県消防団応援事業への参加PRの実施

(3) 防火意識啓発と安全管理の強化

- 事業所や市民を対象とした防火意識の普及啓発
 - ・春、秋の火災予防運動、防火管理者講習会や消防フェスティバルの開催、幼年・少年消防クラブ活動の支援
- 防火対象物の査察、指導
 - ・計画的に防火対象物への査察を実施し、関係者へ違反是正に向けた指導を実施
- 乾燥時季の火災予防啓発
 - ・消防団と消防署の車両による広報活動及び、広報媒体を利用した火災予防啓発

2 成果指標

| 成果指標名 | 成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか) | 成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか) | 単位 | 数値区分 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 |
|--------------|--------------------------------------|--|----|------|------|------|------|------|------|------|
| | | | | | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 |
| 火災件数(暦年) | 火災予防に対する市民意識を示す指標 | 消防は火災を予防し、国民の生命、身体、財産を火災から保護することを目的にしていることから、火災件数(暦年)により市民の火災予防意識を把握するもの | 件 | 目標値 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 |
| | | | | 実績値 | 56 | 50 | 47 | 39 | 42 | |
| 消防団員の充足率 | 地域における消防力を示す指標 | 充足率=年度当初の消防団員数/条例で定める定数(2,142人) | % | 目標値 | 93.0 | 95.0 | 97.0 | 91.0 | 92.0 | 93.0 |
| | | | | 実績値 | 90.5 | 89.4 | 89.6 | 88.0 | 86.8 | |
| 住宅用火災警報器の設置率 | 火災予防に対する市民意識を示す指標 | 年度末の設置率により、市民の防火意識を把握するもの | % | 目標値 | 80.0 | 82.0 | 84.0 | 85.0 | 85.0 | 85.0 |
| | | | | 実績値 | 80.3 | 82.0 | 83.7 | 84.2 | 84.4 | |

3 成果指標の達成状況

| 達成度 | 達成状況に関する背景・要因 |
|-----|---|
| B | <p>■成果指標「火災件数(暦年)」…【達成度b】 春先等の乾燥時に野火火災等が多発したことなどが要因となり、目標値に達することができなかった。</p> <p>■成果指標「消防団員の充足率」…【達成度b】 少子高齢化の進展、被雇用者の増加、社会情勢や住民意識の変化等により消防団員の確保が困難な状況にあることから、目標値を下回った。</p> <p>■成果指標「住宅用火災警報器の設置率」…【達成度b】 広報媒体等を活用したPR活動に取り組んだ結果、設置率は微増したが、わずかに目標値に達することができなかった。</p> |

4 施策を構成する事務事業一覧

| 番号 | 事務事業名 事業内容(活動実績) | 担当課 | 施策への貢献度 | | |
|----|--|-----|-----------|-----------|----|
| | | | 対象 直結度 | 意図 直結度 | 成果 |
| 1 | 火災予防充実強化事業 火災を未然に防止するため、防火意識の向上と火災予防対策の強化を図る。 岩手県消防学校火災調査科入校2名、消防フェスティバル来場者1,700人、防火講話会等(297回)、火災予防巡回広報(1,534回)、防火対象物査察(1,429回)、危険物施設査察(301回)、広報誌等掲載(4回)、コミュニティFM(15回) | 予防課 | 一致 | 直結 | B |
| | | | A | | |
| 2 | 消防拠点施設等整備事業 災害対応力と機能強化のため、消防車両を更新整備する。 (高規格救急自動車1台32,262千円 消防指揮車1台12,795千円) | 警防課 | 一致 | 直結 | B |
| | | | A | | |
| 3 | 消防団員育成強化事業 地域消防力を強化するため、消防団員への教育訓練と装備を充実させ消防団組織の活性化を図る。 消防団員への教育、研修(岩手県消防学校入校23名、)。消防演習の実施。消防団員活動装備の整備(現場用ホース80本、防火衣、活動服上下、半纏、防火ヘルメット、編上靴)。 | 総務課 | 間接・少数 | 直結 | B |
| | | | B | | |
| 4 | 消防団施設等整備事業 地域消防力の充実・向上のため、消防屯所、消防団車両及び装備品を計画的に更新整備する。 消防屯所新築工事1棟<前年度繰越事業>、下水道接続工事1棟、消防ポンプ車更新2台、小型動力ポンプ積載車更新2台、小型動力ポンプ更新4台 | 総務課 | 間接・少数 | 直結 | B |
| | | | B | | |
| 5 | 消防水利維持管理整備事業 災害発生時の消火を迅速に行うため、消防水利の整備と維持管理を行う。 耐震性貯水槽1基<前年度繰越事業>、耐震性貯水槽1基、消火栓設置10基、管敷設替工事に伴う消火栓更新6基、消火栓移設5基、消火栓保守及び維持管理2,030基、既存消火栓一般修繕24基、防火水槽の修繕4基 | 警防課 | 一致 | 直結 | B |
| | | | A | | |

5 施策を構成する事務事業の検証

| |
|--|
| <p>(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか) ・なし</p> <p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか) ・消防団施設等整備事業についての消防屯所新築工事1棟<前年度繰越事業>を翌年度に繰越した要因は、用地取得に遅延を生じたことから、適切な工期設定と計画的な発注に努める。</p> <p>(新たに取り組むべき事業はないか) ・なし</p> |
|--|

6 施策の総合的な評価

| |
|--|
| <p>(課題) ・強風時、乾燥時に「たき火」や「枯草焼き」など、人の不注意による火災が依然として多数発生していることから、屋外における火の取扱いに関する注意喚起や指導を行う必要がある。 ・設置から10年を経過した住宅用火災警報器は、取替えを要することから市民へのPRと理解を得る必要がある。 ・地域コミュニティとの連携強化を図りながら、広く消防団の活動を市民や事業所等にPRし消防団員の確保に努め、イメージアップを図るとともに訓練等の負担軽減に取り組む必要がある。</p> <p>(今後の方向性) ・火災件数の抑制と被害軽減に向けた広報活動を強化し、市民の防火意識の向上を図る。 ・防火講話会等、消防イベントや大型店舗などでの直接的な呼び掛け活動を通じて、住宅用火災警報器に関する説明および未設置世帯に対する設置促進を強化する。 ・地域防災力の中核として欠くことができない消防団を「要員動員力、即時対応力、地域密着性」に優れ、持続可能なものとし消防団員が入団しやすい環境と活動しやすい体制づくりを推進しながら、現在、進めている「花巻市消防団組織等再編計画(案)」により機能的で実効性の高い消防団組織の構築を図る。</p> |
|--|